

我が町小淵沢・鍔絵の里

鍔絵巡りシリーズ・小淵沢編

・距離 約15km ・所要時間 4時間30分 ・スタート・フィニッシュ 小淵沢駅

・コース

小淵沢駅(トイレ) → 本町(鍔絵3件) → 尾根(鍔絵2件) → 小淵神社 → 高野(鍔絵1件) → 高福寺(昼食・トイレ) → 高野(鍔絵1件) → 謎の枝垂れ桜並木 → コンビニ(トイレ) → 滝之前鍔絵(2件) → 大滝湧水(トイレ) → 滝之前(鍔絵2件) → 小淵沢駅(トイレ)



左官さんが饅だけを使って書いたと言われる饅絵、有名なのは津金の里ですが、探してみたらありました。小淵沢だけでも17ヶ所ほど……。須玉や津金に多く見られる「松に鷹」は見られず、七福神が幾つか見られるのは長野県方面からの饅絵文化の流れでしょうか。また二宮金次郎や養老の滝を題材にしたもの、「波に千鳥」など他ではあまり見られないものもあります。

新緑の美しい里山小淵沢の初夏の風の中、饅絵を拝見しながら巡ってはいかがでしょうか。お昼は108の鐘のある高福寺さんのお庭をお借りしました。



① 彩色はされていませんがミョウガが2本抽象化されてのデザイン、家紋ではないと思うのですが……。



③ (白の) 漆喰だけで描いた亀、不気味さも漂う程の凄み、古いものようです。



④ 旧字の「宝」、その周囲の線で描かれたこういう装飾、何と言うのでしょうか？ここでしか見かけない作品です。



② 長寿の象徴：亀が描かれることは多いのですが、これは浦島太郎からとってきた亀、そして玉手箱まであります。これも珍しい。



⑤ 「波に鶴」でしょうか。背景に薄いブルーを使って、古くはなっていますがお洒落な色づきだったのでしよう。



⑧ 養老の滝を題材にした作品。親孝行の若者が父親のために苦勞して万病に効く水を飲ませたお話。孝行息子を持つのも万人の願いです。



⑦ 「松に鶴」、首・頭・羽が立体的に描かれ、古いながらも色彩豊かで完成度の高い作品。この丑鼻の上のハナブカ部には小さいながらも「猿」が描かれており、これもまた珍しい。



⑥ 「波に兎」、題材は因幡の白兎と思われれます。兎は子だくさんで子孫繁栄を、又兎の赤い目は災いを防ぐと言われていています。まわりのフリル模様も斬新。



⑨ 「二宮金次郎」。薪の束に腰掛け、立木を背にしての苦学の様子。勤勉・勤勞のお手本はやはり家の繁栄を願うシンボルなんだろうね。